

# 第12回鹿児島全共における大崎地域の取り組み

北部家畜保健衛生所

今井勇志, 丹野さやか, 小林宏子, 平子智子

はじめに

第12回全国和牛能力共進会(以下「全共」)鹿児島大会は令和4年10月6日から10日にかけて開催された。今大会は「和牛新時代 地域輝く和牛力」がテーマとなっており、種牛の部では一部区の出品条件に母牛が県内産であることが付け加えられ、出品牛に地域色を出すことが求められた。また、肉牛の部では和牛の新たなおいしさの指標である一価不飽和脂肪酸(MUFA)が重要となる第7区(脂肪の質評価群)が新設された。

さらに、前回の全共宮城大会で復興特別出品区とされた高校生の部が新たに特別区(高校及び農業大学の部)として新設されるなどの変更があった。

今回は大崎地域から全共鹿児島大会への出品、上位入賞を目指して実施した取り組みについて概要を報告する。

## 1. 管内の概況

北部家畜保健衛生所(以下「北部家保」)管内にはみどりの和牛育種組合と大崎和牛改良推進組合の2つの組合が存在する。

みどりの和牛育種組合は県内で初めて育種組合へ昇格した組合である。古くから広島系の雌牛を導入して改良を進めてきた経緯から、広島系につながる第2横利系統を取り込んだ新しい茂重波系統である「みどりの系統」の構築を目標としている。過去の全共に何度か出品を経験しており、前回の全共宮城大会では第4区(系統雌牛群)で優等賞5席を獲得した。

対して大崎和牛改良推進組合は JA 古川, JA 加

美よつば, JA 新みやぎ(いわでやま)の3つの農協にまたがって存在する組合で、平成26年度に設立された比較的新しい組合である。これまで全共への出品経験はないものの、全共出品への意欲が高く、今後の発展が期待される組合である。

このように管内の2つの組合は、全共への取り組み状況が異なり、かつ今大会で「地域の特色」が重要視されていることから、それぞれの特色を活かした出品対策を実施し、北部家保では両組合の活動に対して支援を行った。

## 2. 候補牛生産の流れ

全共候補牛生産にむけた活動は令和元年より開始した。候補牛の頭数確保のため、関係機関と連携して地域の交配可能な雌牛をリストアップし、雌牛の現地確認をするとともに飼養者へ候補牛生産への協力依頼を行った。並行して協力家畜人工授精師にも交配依頼を行い、出品条件に合致する時期での人工授精を指導した。これらの取り組みで生産された指定交配産子に加え、受精卵産子や組合内全体から出品条件に合致する子牛を抽出し、種牛の部・肉牛の部あわせて235頭の産子調査を行った。

## 3. 全共出品までの取り組み活動(種牛の部)

各地区で生産された候補牛は、その後巡回調査や集合調査を重ねて地区代表牛の絞り込みを実施した。同時に経産牛区(第4区, 第5区)の候補牛も巡回し集合調査会で代表牛を決定した。また特別区については、加美農業高等学校と小牛田農林高等学校が出品に挑戦し、北部家保管内からは2組

合で延べ38頭が地区代表牛に選出された(表1)。代表牛決定後は組合ごとに集合指導会を開催し、農協、家保ほか関係機関で栄養度判定による飼養管理の指導や選抜会に向けた正肢勢、整列を指導した。

表1 組合別種牛の部最終選抜会出品頭数

種牛の部	出品要件	みどりの 和牛育種組合	大崎和牛 改良推進組合
第2区	14~17ヶ月未満	3頭	3頭
第3区	17~20ヶ月未満	3頭	3頭
第4区 (群出品)	3産以上、 3代自県内産	1群(4頭)	1群(5頭)
第5区 (群出品)	母-娘-孫の3代1群 かつ高等登録牛	1群(3頭)	—
第6区 (種牛・群出品)	父母県内産 父牛がH22.10.1 以降生まれ	1群(6頭)	1群(6頭)
特別区 (高校・農業大学の部)	14~20ヶ月未満	1頭	1頭
計		20頭	18頭

令和4年7月8日、9日に行われた種牛の部最終選抜会である宮城県総合畜産共進会ではみどりの和牛育種組合が第3区(若雌の2)及び第5区(高等登録群)で第1席を獲得したほか、特別区(高校及び農業大学校)で小牛田農林高等学校が第1席を獲得し、管内から計5頭が宮城県代表牛として選抜された。また代表牛とならなかったものの大崎和牛改良推進組合から補欠牛が1頭選抜された。

県代表牛が決定した後は、出品牛全頭で行う県域の指導会の他、地区毎に指導会が開催され、栄養度や正肢勢の指導を行うとともに、それぞれの牛の課題を明確化し改善を促した。指導会後は出品区ごとに改善に取組み、次の集合指導会で状況を確認するという流れを繰り返し出品対策が進められた。

このような取り組みの中で北部家保では特に第5区と特別区の出品対策を重点的に支援した。

第5区出品牛のうち母牛と娘牛の出品者は高齢で、後継者も専業農家ではないため継続した手入れや調教が難しい状況であった。そこで農協をはじめとした関係機関で毎日農場へ通い、出品牛の

手入れや調教を実施した。集合指導会で群全体の課題として被毛や肢勢の悪さが挙げられていたことから、水洗いによる冬毛への換毛の促進や、繋ぎ場に設置したパイプを利用した肢勢の矯正(図1)、地域協力者の運動場を利用した追い運動を行うことにより課題の改善を図った。

小牛田農林高等学校が出品する特別区は出品牛審査の他に、自分たちの学校で実施している畜産に関する活動や全共出品に向けた対策を報告する取組発表表がある。上位入賞を目指して、北部家保では高校生が作成した取組報告書や口頭発表原稿に助言や指導を重ねた。



図1 肢勢の矯正風景

#### 4. 全共出品までの取り組み活動(肉牛の部)

指定交配により生産された肉牛の部候補牛46頭は、令和3年5月に開催された幹旋会により生産農家から県内の肥育農家へ引き渡され肥育が開始された。肉牛の部に出品するには肥育終了時24ヶ月齢未満であることが条件であるため、候補牛も通常より早い約6ヶ月齢で肥育農家へ引き渡された。管内では3戸の肥育農家が全共出品へ挑戦した。

引き渡し後は関係機関で2ヶ月に1度肥育農家を巡回し、候補牛の体測や飼養状況調査を実施し、4ヶ月に1度の血液検査結果も参考に肥育農家へ飼養管理の指導を行った。また代表牛選定の材料とするため、14ヶ月齢にあたる令和4年1月からは超音波肉質診断を実施し、各筋肉の面積や脂肪交雑

の確認を行った。その後令和4年8月に肉牛の部最終選考会が開催され、宮城県出品牛7頭が決定した。管内からはみどりの地区から出品牛1頭、大崎地区から補欠牛1頭が選抜された。

肉牛の部においては、北部家保では候補牛生産者に着目した。北部家保管内からは多くの繁殖農家の協力のもと全体の約3割に当たる17頭の候補牛が生産されているが、引き渡し後は肥育農家と関わる事がほとんどなく、また自分の生産した牛の経過を知ることが難しいため、全共への参加意識が希薄になりやすい傾向があった。そこで北部家保では候補牛ごとに肥育状況シート(図2)を作成し、候補牛生産者へ肥育の途中経過を知らせることで、全共参加意識の向上を図った。



図2 肥育状況シート

肥育状況の情報提供は肥育状況シートを候補牛ごとに作成し、その生産者へ令和3年11月に1回目、令和4年3月に2回目を配布した。1回目は引き渡し後半年経過時点で、シートの内容は増体量や導入直後の血液分析結果のほか、導入先の家保、畜産振興部に協力を仰ぎ、肥育農家への聞き取り調査により導入牛についてのコメントを掲載した。2回目は1回目の内容に加え、選抜の指標の一つである超音波肉質診断について紹介した。受け取った生産者から好評を得たことから、この取り組みを通して肉牛の部候補牛生産者の参加意識の向上を図ることができたと考える。

## 5. 結果

令和4年10月6日から10日に行われた全共鹿兒島大会では、管内の出品牛全頭が優等賞を獲得し、前回大会に次ぐ成績を収めた(表2)。また種牛の部出品牛において美点として肢勢の項目が評価され、取組に一定の成果がみられた。

表2 管内出品牛全共成績表

出品区	名号	父牛	飼養者	成績
第3区	ぶらふまん	洋糸波	後上藤三氏	優等賞7席
	ゆりひめ	勝洋	浜田政美氏	
第5区	さくらひめ	勝早桜5	菅原正博氏	優等賞8席
	ひめふく	茂福久		
第8区	朝洋美	茂洋美	菅野豊博氏	優等賞28席
特別区	わさび	洋糸波	小牛田農林高校	優等賞15席

次回大会に向けて

管内の2つの組合は成熟度や取組状況が異なることから、両組合を管轄する家保が組合同士の交流の場を設けることにより、出品牛や調教技術のレベルアップを図ることが期待されたが、新型コロナウイルス感染症のため、集合すること難しく、実現できなかった。

次回の第13回全共北海道大会に向けて、今回実施できなかった合同調教指導会や大崎地域の共進会を開催し、大崎地域全体の出品牛や調教技術のレベルアップを図るとともに、管内の2組合が組合としての特色を出しつつ今大会以上の成績を残せるような取組支援を行っていききたい。